

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600440	事業の開始年月日	平成30年 4月 1日
		指定年月日	平成30年 4月 1日
法人名	株式会社 葉山		
事業所名	グループホームひばり苑 花見台		
所在地	(〒240-0016) 横浜市保土ヶ谷区花見台4-3		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	27 名
		ユニット数	3 ユニット
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	令和7年6月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の残っている残存機能を生かし、明るく生き活きとした生活を送って頂くように支援している。
(スタッフと一緒に出来る事はご自身でやって頂く)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2 3 日土地山下町ビル9 F		
訪問調査日	令和7年3月28日	評価機関 評価決定日	令和7年5月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所は、JR横須賀線保土ヶ谷駅と相鉄線星川駅からバス便が利用でき、最寄りバス停から徒歩1分の場所に位置する3ユニットのグループホームである。事業所の裏手には、脇の遊歩道から続く県立保土ヶ谷公園があり、自然豊かな環境となっている。広大な敷地の公園に、四季折々に咲く花壇の植栽や、木々の変化から季節を感じられる。訪問日には桜が3分咲きとなっていた。公園内には野球場などのスポーツ施設もある。利用者は日頃、散歩のため公園を訪れている。 【利用者の残存能力を活かす日々の生活】 職員は、利用者が、入所前に行っていた家事や、趣味、生活習慣等の継続に重きを置いた支援を心がけている。入居時アセスメント時に利用者、家族から聞きとった得意なことや、出来ることをケアプランに反映させている。自分の役割として決まった時間に台所に立ち、包丁を使って野菜を切ったり、配膳を手伝ったり、テーブル拭き等を行う利用者もいる。また掃除機やモップ掛けをする利用者もいて、職員の手助けになっている。楽器演奏の得意な方のハーモニカやキーボードなどの演奏に合わせ、フロアの利用者が歌を歌うこともある。時には楽器を持参して別ユニット(別フロア)に自ら演奏に出向くこともある。 【職員のチームワークを生かした課題への取り組み】 昨年の前管理者の退職に伴い職員の入れ替わりが多くあり、運営にもかなり影響や課題も生じたが、現管理者の下、介護支援専門員やフロアリーダーが中心になり乗り切ってきた。風通しの良い職場づくりを目指し、各フロアごとの特徴を生かしながら、時にはフロアを超えて職員が連携して、前向きに課題に取り組み、常に利用者本位を心掛けた支援をしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームひばり苑花見台
ユニット名	あすなろ（1F）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23, 24, 25）		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18, 38）	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36, 37）	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30, 31）	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 19）		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9, 10, 19）		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
		○	4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホームひばり苑花見台
ユニット名	ひいらぎ（2階）

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23, 24, 25）		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18, 38）	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36, 37）	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30, 31）	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 19）		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9, 10, 19）		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
		○	4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホームひばり苑花見台
ユニット名	はなみずき（3階）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に掲示し、職員で共有できるようにしている。	法人の理念を基に、「仕事への誇りを持つ」「相手のプライドを尊重する」「配慮ある気配り」「一緒に楽しく過ごす」の4項目からなる心がけを職員のケアの柱に据えている。今年度は、前管理者の急な退職と職員の入れ替わりも多くあり、職員の勤務体制も変わっている。職員から昇格した現管理者は、着任当初から、事業所の現状や、利用者のニーズ等を踏まえ、新しい理念の作成を模索している。新年度に向け、利用者の残存機能を今まで以上に活かせるケアに主眼を置いた理念の作成を職員と協議する予定にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保土ヶ谷小学考の生徒達との交流会を始めた。 2024年度より。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつ、地域のお祭りや老人会のような行事に参加したいと思っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に 活かしている	管理者が変わったり、大量の退 職者が出てしまい、時間が取れ ずに出来ていなかった。	新型コロナウイルスが5類に移行後、一時期自治会 役員や、民生委員、地域包括支援センター職員 が参加をして、運営推進会議を対面開催してい たが、今年度は対面開催ができず、行政の了解 を得て書面開催としている。次年度に向け、管 理者は再度自治会や地域包括支援センターに出 向いて、参加を要請する意向がある。また現在 まで家族の参加が叶っていないが、運営に関心 を持ってもらうために、面会時に参加を要請し たり、運営推進会議の報告書を全家族に送付し て、事業所の活動や状況を随時伝えていくこと にしている。	地域密着型の事業所の意義を 踏まえると、家族や地域との 連携は不可欠です。そのため にも地域包括支援センターや 地域と連携が図れる関係の構 築、家族による事業所運営へ の理解など、各方面に積極的 に働きかけることを期待しま す。また、運営推進会議を利用 して、災害時の地域連携等の 協力を要請することを期待 します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	不明なことや必要時の問合わせ等は密に問合わせを行って いる。	保土ヶ谷区役所の職員とは、介護保険要介護 認定の更新や、生活保護受給者の支援で連携を 取っている。今後は、運営推進会議の議事録や 外部評価結果を持参して顔の見える関係作りを していきたいと管理者は考慮している。地域事 情や情報を把握するため、地域包括支援セン ターとの連携を強化していく意向である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象 となる具体的な行為を正しく理解するととも に、身体的拘束等の適正化のための指針の整 備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修 を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体 的拘束等をしないケアに取り組んでいる	施設独自の研修は6ヶ月ごとに行 い、ウェブでの研修も各自 行っている。 (事業所研修は研修記録を提出 している)	「身体拘束等の適正化検討委員会」は、3か月ご とに管理者、介護支援専門員、各フロアリー ダーが参加して開催している。研修は年2回、オ ンライン研修を行っている（外部業者）。「不 適切ケア」をはじめ11項目のテーマに沿った研 修は、オンライン形式で実施し、管理者は、職 員の受講状況を確認している。不適切ケアにつ ながる利用者の行動を制限するような声掛け等 が見受けられた場合、管理者が個別に指導して いる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修時に一緒に行っている。	「虐待防止委員会」は、「身体拘束等適正化検討委員会」と同時開催している。虐待研修もオンライン形式で年2回実施している。虐待防止は、職員がストレスをため込まない事が重要と考え、職員がどのようなことも話し合える風通しの良い職場環境を目指している。また今後はストレスチェックの導入なども考慮している。また行政機関等の「心の相談窓口」の案内を職員に周知していくことにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各自ウェブ研修を行っているが、スタッフには説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金の説明や詳細は細かく説明をし、同意書を頂いている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時にご家族様に意見を頂き、反映できる事は参考にしてている。	入居時に家族の希望を伺い、可能な限り実現できるように対応している。時には特別な個別対応を求められる事もあるが、事業所の実情や、出来る範囲等を説明をして理解を得ている。家族への連絡は主にメールとしているが、手紙での報告を希望する家族には、希望に沿う対応をしている。管理者は、利用者の意見を運営に反映させることを大切にしている。「お花見したい」「おいしいお弁当が食べたい」という声に応え、4月には、桜の時期に合わせ、お花見弁当を用意して、前庭でのお花見昼食会を予定している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1カ月に一度程度、リーダー会議を行っている。 その中で各ユニットや施設の問題点などを話し合っている。	職員全員が参加する会議は行っていないが、毎月1回以上リーダー会議を行っている。職員からの意見や要望は、申し送り事項としてケアカンファレンス等に反映させている。キャリアパスは法人と相談をして現在作成をしている。年に1回、人事考課や勤務に関する希望などを基に個人面談を実施している。社員が薬の管理やモニタリング、アセスメント等の一部担っている。	職員全員が意見交換できる場が現在ありません。非常勤職員も多く在籍しているため、開催には困難は伴いますが、1か月～2か月に1回程度のフロア会議や、年に1～2回程度、法人の代表が参加する全体会議の開催を期待します。
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数に応じて、給与を増加させたり資格取得金の枠を設けたりしている。 また、評価給制度も取り入れて行こうと考えている。	次年度から介護職員等処遇改善加算（Ⅱ）を取得してベースアップにつなげるようにしている。キャリアパス制度を採り入れ、職員の評価に伴う資格取得の奨励や、昇給等に反映させる就業環境の整備を法人のバックアップを得て、進める予定にしている。職員の休憩室を2階、3階に設けており、気分転換が図れている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を取り入れ、職員に研修をして貰っている。	認知症介護基礎研修を修了した職員には、介護福祉士実務者研修受講を勧めている（法人が受講費を全額負担）。次年度は、2名が介護福祉士実務者資格取得後に、介護福祉士の資格取得を目指している。正職員、非常勤（夜勤専従職員含）問わず、全職員が勤務時間内に受講できるオンライン研修（外部業者）を取り入れる等、職員の育成環境の整備に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜で開催されるセミナー等に参加をしてもらい、周囲の意見を聞きに行き、意見交換等をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、入居者さまに対しアセスメントをさせて頂き、入居後の不安等を伺い軽減出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、ご家族様のお考えやお困りごとを見学時にも伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に、ご家族に利用者さまのアセスメント時に伺った内容をお話し、それも踏まえたご要望を伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者さまの出来る事に着目をし、一緒にお手伝いをして頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご本人様の想いをご家族様にお伝えし、今後の事を相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人が面会に来られたり、家族と外食やお出かけをされている。	開所直後に新型コロナウイルス感染症の影響で面会等が制限された影響もあり、5類に移行した後も友人や知人の面会はあまりないが、日々の生活で定期的に顔を合わせる訪問診療の医師や看護師、理美容師等、また近隣のコンビニの店員などが顔馴染みになっている。利用者が入居前から行っていた家事や生活習慣の継続を支援していることで、決まった時間になると、台所に立ち、包丁を使って調理の手伝いや、配膳、テーブル拭き等を自発的に行う利用者がいる。職員は利用者が皆の役に立っていると感じられるように、感謝を伝えている。自ら好きなハーモニカやキーボードで演奏をする方もいて、階下のフロアに出向き演奏を披露する事もある。また従前からの習慣で毎朝化粧をして身支度を整える方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者様を同等に接しており、お声掛けを行っているので周りの入居者の方もお互いにお声を掛け合い心配し合ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居なさった後も出来る限りの相談は受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は傾聴に努め、希望や意向を把握するようにし、ご家族様にもお伝えしている。困難な場合は、職員同士話し合って方法を考えている。	現在、ほとんどの方が自分の意思を伝える事ができるが、少しずつ困難になってきている方もいる。不満や嫌なことがあり、イライラした気持ちが行動に表れることがあるため、利用者の様子から迅速に思いや意向を察知するような支援を心がけている。利用者の思いや意向は、タブレットの個人ごとのケース記録や、申し送りノートに記入している。必要に応じて介護計画に反映させたり、モニタリングに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設で可能な限り継続して頂けるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、体調管理や心身の状態を注意深く観察し、変化のあった場合はスタッフ同士共有し、支援にあたっている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じたカンファレンスなどで話し合いをし、どのように支援していけば良いのかを検討している。	新規の介護計画は1か月～2か月で見直している。通常は短期目標は3か月、長期目標6ヶ月で見直しをしている。1階は居室担当制を取り、アセスメントやモニタリングをしている。担当者会議は、管理者、計画作成担当者、当日の出勤者が参加し、開催している。申し送りノートの記録、ケース記録、カンファレンスであがった課題やニーズを基に、話し合っている。会議の内容は申し送りノートに記録をして職員が共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット入力になり、記録の漏れ等は少なくなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員はまず傾聴に努める。 ニーズを探し出し、近づけるように支援する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心した暮らしが出来るように 近隣の交番に認知症対応の施設である事を伝えている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	明神台クリニックと横浜港南台 地域包括病院に月2回の往診を 依頼している。 どちらの病院も24時間オンコール体制を取っている。	入居者全員が2か所の協力医（内科）の訪問診療を月2回受診している。いずれも訪問時には看護師が同行している。「次回訪問診療質問事項記入書」に、利用者の変化や状態等を記載してFAXで事前に報告し、診察時の医師のアドバイスや留意点を赤字で記載し、「往診記録」として職員が共有している。薬は、かかりつけ薬局が一包化したものを届けてくれる。専門科への受診は家族対応とし、受診結果はタブレットのケース記録に入力して共有している。個別契約をした利用者が、月2回、歯科訪問診療を受診している。受診結果は、「歯科診療報告書」で共有している。週1回、看護師（非常勤）が勤務し、利用者の健康管理や医療処置、職員へのアドバイスを行なっている。訪問マッサージを利用している方もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護職員が出勤し利用者様の体調の変化等を報告している。 病院受診等のかかりつけ医と相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時はベッドを空けて再入居出来るような体制を取っている。 入院後、医療的ケアなどが必要になった場合はご家族と話し合いを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際は、ご家族や提携する医療機関の医師を交えて、今後の方向性について早い段階で話し合いをしていく。	入居時に「看取りについての事前確認書」で、急変時や終末期の意向を聞き、事業所の「看取り指針」を説明して、「終末期ケアについての同意書」を得ている。2か所の協力医の24時間オンコール体制や、医師から急変時や重度化した場合のアドバイス、非常勤看護師の配置など、医療面のバックアップ体制が整備されている。開所から日が浅い為、看取りの実績もあまりないが、事業所では、職員がオンラインで看取り研修を受講、経験のある職員や看護師も在籍しており、看取りに対応する体制はできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各フロアーに緊急連絡シートを置き、早急に家族と連絡が取れるようになっている。 また、救急搬送時のフローも置き日々確認するようにスタッフが心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として年に2回の消防避難訓練を行っている。 消防署に連絡をし、消防訓練をして頂けるか打診する予定。	今年度は、11月に日中想定 of 火災の訓練を実施している。訓練には、利用者も参加をした。年度内に夜間想定 of 訓練も考慮したが、職員の退職や勤務体制の変更等もあり実施できていない。BCP（事業継続計画）を作成しているが、実情に合わせ細かい点などの精査が必要と管理者は考えている。非常災害時の備蓄品は一通り備えているが、量や内容などを現在見直している。	夜間想定を含めた年2回の訓練は必須です。特に夜間想定 of 訓練には、夜勤専従職員の参加が望まれます。災害時に、事業所内の家具や電化製品の転倒、移動防止対策や、棚の上から物が落下して避難経路を塞がないよう置き場所を検討する等の減災対策が望まれます。職員が一同となり、事業所内を再点検し、話し合われることを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さまへのお声掛けは、「さん」付けで行っている 記録に残す場合は名前ではなく居室番号での記録にしている。	利用者の尊厳や羞恥心に配慮してトイレ誘導の際は小声で声を掛けたり、リビングにいる利用者の居室に入る際は、許可を得て入室するなど配慮をしている。職員同士で利用者の話をする際も、離れた場所に移動するように心がけている。個人情報を含む書類は施錠管理している。パソコンは使用者を限定しているが、パスワードを設定していない、タブレットは、使用者を限定していない等、現在、個人情報の管理や保護のルールが定められていない。	個人情報保護の観点から、パソコンやタブレットのパスワード設定は必須です。またアプリを入れると個人のスマホでケース記録が見れるため、職員は勤務前にスマホで確認をしています。個人のスマホで事業所の個人記録を閲覧する際やSNSで画像を扱う際には一定のルールは必要です。個人情報保護の取り扱いについて研修や保護規定の見直し等を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お声がけをし、思いや希望を話しやすい雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間やお風呂の時間は決まってはいるが、出来るだけ本人様の意思に添うように時間調整をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身でお化粧や着替えをされる方が多いが、季節外れの洋服を着られている時はお声掛けをして着替えて頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が決まっているので好みに合わせる事は出来ないが、献立の説明はしている。また、食器拭きはお手伝い下さる。	食事は3食とも委託業者が配達する冷凍のおかず類を湯煎で温めて提供している。朝食は、利用者の希望のクロワッサン等パンを提供することもある。またテイクアウトのピザやカップラーメン等を取り入れ、食に変化をつけている。調理ができる方が多くいるフロアでは、餃子やおやつを職員と一緒に作り楽しんでいる。近々、他のフロアでもおはぎづくりをしようという話が出ており、利用者からはごまおはぎを作りたいという意見があった。誕生日には、ホールケーキや事業所隣のコンビニで購入するスイーツでお祝いをしている。新年度からは、管理栄養士が週5日勤務するため、食に関するレクや行事を行う予定にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タブレットに都度入力をしてスタッフで共有出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者さまの個々のADLに合わせて一部介助を行っている。 歯科往診を月に2回（ご本人・家族希望者のみ）行っており口腔内の清潔保持を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助が必要な入居者様に対してはお声掛けをこまめに行っているようにしている。	利用者27名中、完全に自立でトイレで排泄できる方が3名、そのうち1名が布パンツを使用している。その他の方はリハビリパンツにパッドを使用している。夜間だけオムツを使用する方が3名いる。比較的自立度の高い方が多く、自らトイレに行く方が半数、その他の方は排泄チェック表に基づき誘導をしている。夜間も一定の時間にパッド交換をしている。便秘気味の方の排便の確認や、パッドの交換を職員が手助けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師らと共に日常生活の様子や排便のパターンを確認し、排便コントロールを行っている。 利用者様の状態にはいりよしながらの調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の日程は決まっているが、状況により順番を入れ替えたり、日程を変更したりしている。個別で入浴し配慮をしている。	週2回、午前中に1日3名程が入浴している。入浴を好まない方もいるが、時間や対応者を変えたりして無理のない誘導を心掛けている。当日どうしても入浴をしたくないという場合には、翌日に再度促すようにしている。現在、同性介助を希望する方はいない。浴槽は浅い作りで跨ぎやすく、2方向から介助できるようになっている。浴槽の湯はかけ流しにして清潔の保持に配慮している。冬場には柚子湯を楽しむこともある。浴室暖房機と脱衣場のエアコンでヒートショックに備えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室になっているので、自由に個室に戻られ休息されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各階に薬事ファイルを置き、職員は確認出来るようになっていいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや食器拭きなど入居者さまが出来る事は積極的に職員見守りながら行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に近くの公園にお花見に行ったり散歩に行くように支援している。	隣接して県立保土ヶ谷公園があり、四季折々の変化が楽しめる利用者の憩いの場所になっている。天気の良い日には車いすを使用している方も事業所脇の遊歩道から車を気にすることなく散歩をしたり、花を眺めたりして楽しんでいる。利用者は、公園内の野球場から聞こえる歓声や、スポーツを楽しむ子供たちの様子を楽しみにしている。散歩を面倒に感じる利用者は、前庭での外気浴をしたり、隣接のコンビニにおやつを買いに出たりしている。家族と外食を楽しんだり、法事に出かける方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族にお願いしているので施設ではお預かりしていない。ご利用なものがある場合は立替たり、ご家族に依頼している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がかかってきた時のお取次ぎをしている。 手紙は来ることも書くことも無くなってしまっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは大きな窓もあり、採光もあり明るい。 居室や共有スペースには季節ごとの飾りを入居者様と一緒に作り張り出ししている。	リビングでの過ごし方では、3ユニット、それぞれに特徴がある。3階は比較的自立度が高い方が多いことや、全員女性ということもあり、利用者の楽器演奏に合わせて歌を歌ったり、会話を楽しんでいる。2階は塗り絵などを楽しむ方が多い。1階の方は他のフロアより介護度が高いため、一人ひとりがテレビを見たり、新聞読んだりしながら過ごしている。各フロアごとに壁に共同制作した季節の貼り絵や、行事の写真などを飾っている。リビングには、次亜塩素酸の入った空気清浄器を設置して感染症対策をしたり、廊下にエアコンを設置して共有空間に温度差がでないよう配慮している。利用者が掃除機をかけたり、モップ拭きを手伝うフロアもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士の食席を考慮している。 ご入居様同士お部屋を行き来しながらおしゃべりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの備品以外は、ご自身の使い慣れた家具などを持ち込み設置されている。	各居室には壁面に大型のテレビ、クローゼット、介護用ベッド、エアコン、照明、防災カーテンが備え付けられている。利用者は自宅から家具類や、仏壇、時計、カレンダーなどの生活用品などを持ち込んでいる。居室に観葉植物を置き世話をしている方も複数名いる。また自作のドライフラワーのアレンジメントや、パッチワークのベッドカバー等の作品を飾って、居心地の良い部屋にしている方もいる。利用者は、携帯電話で話をしたり、横になって寛いだり、思い思いに過ごしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷わないように、各居室のドアには名前を貼ったり、お風呂屋トイレにも場所が分かるように張り紙をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホームひばり苑花見台

作成日

令和7年5月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員育成の取り組み	研修や実習を行いスキルアップを目指し、資格取得がしやすいような環境にしていく	各自目標を掲げてもらい全員が周知して実践していく。 資格取得費用等の支援体制の充実を図る。	12カ月
2	2	地域との付き合いを深めていく。	地域と関われる事を調べ増やしていく。	運営推進会議の開催 町内会行事の参加	12カ月
3	3	事務所の理念について	分かりやすい理念を掲げ、実践出来るように心掛ける。	各フロアーに掲示し、出勤時に確認する。	6カ月
4		職員の意見交換	職員全員が意見交換出来るようにする	意見箱等の設置をする。	12カ月

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。